

# スマホネイティブ世代と防犯意識

岡山県立津山中学校 3年 大家 瑞稀



©SUSUMU MATSUSHITA ENTERPRISE

私達の世代は「スマホネイティブ」と呼ばれる。小学生の頃からスマートフォンやタブレット、パソコンなどに触れて育ち、自然にインターネットやSNSを使いこなすことができる世代だ。私自身も学習での調べ物や友達とのやり取りに、当たり前のようにスマホを利用している。便利で手放せない存在であり、もはやスマホなしで生活することは難しいとさえ感じる。

しかし、その便利さと楽しさの裏には危険も潜んでいる。ニュースではSNSを通じたトラブルや個人情報の悪用が報じられているが、かつては「遠い世界の話」だと思っていた。だが、よく考えるとSNSの危険は私達一人一人に身近な問題なのだ。使い方次第で被害にあう可能性は誰にでもある。

SNSの大きな魅力の一つは「つながれること」である。離れていても友達と交流でき、趣味を共有する仲間も見つかる。さらに、学校生活でも部活動の連絡や授業での調べ学習に活用されることが多く、便利さを強く実感する場面は日常的にある。だが同時に、知らない相手とも簡単につながれてしまう。投稿写真に写りこんだ看板や制服から学校や生活圏を特定されることもある。投稿時間や頻度から生活リズムを推測されることさえある。自分では気づかないうちに日常の細やかな情報を外に漏らしている危険があるのだ。

さらに、匿名性も問題である。画面の向こうにいる相手が誰なのかは確かめられない。年齢を偽る大人や悪意を持つ人と出会う可能性もある。たとえ「同じ趣味を持つ中学生」と名乗っていても、事実かどうかは分からない。現実世界では知らない人に警戒するのに、ネット上ではつい安心してしまう。この油断こそ大きな落とし穴である。実際、知人の中にも「ネットで知り合った人と遊ぼう」と誘われ、不安になって家族に相談したという例があった。幸い大きなトラブルにはならなかったが、もし一人で判断していたら危険に巻き込まれていたかもしれない。こうした体験を聞くと、SNSの危険は本当に身近なものだと実感する。

それでは、私達にできる防犯は何か。まずは「むやみに個人情報を投稿しないこと」である。写真や動画を投稿するときは背景や服装に注意し、位置情報が表示されないよう設定を確認する。ちょっとした意識で被害を防ぐことができる。また、知らない人からのメッセージには安易

に反応しないことも大切だ。相手がどんなに親切そうに見えても、その人の正体までは分からない。疑う姿勢は自分を守るために必要なのだ。

もう一つ大切なのは「相談すること」である。SNSで不安を感じたり、知らない人から声をかけられたりしたとき、一人で抱え込むのは危険だ。家族や先生、友達など信頼できる人に話すことでトラブルを防げる。相談は勇気が必要かもしれないが、被害にあってからでは遅すぎる。私は、相談できる人が身近にいるという安心感こそが、危険を遠ざける大きな力になると思う。逆に一人で悩み続けると、冷静に判断できなくなり、相手の言葉を信じてしまう可能性が高まる。だからこそ「迷ったら誰かに話す」姿勢を習慣にしたい。さらに、相談しやすい雰囲気を作る大人たちがつくることも重要だと思う。大人が頭ごなしに叱るのではなく、真剣に耳を傾けてくれる環境があれば、私達はもっと安心して助けを求められるだろう。

これからもスマホやSNSは生活から切り離せないだろう。だからこそ「便利さ」だけでなく「危険を避ける冷静さ」を持つことが、私達スマホネイティブ世代に求められている。防犯は特別なことではなく、日常の小さな意識の積み重ねである。その意識こそが自分と周りの安全を守る力になる。そして、このような意識は将来社会に出てからも役立つ。私達はこれから大人になり、仕事や人間関係の中でSNSを使い続けるだろう。そのときに今日の学びが生きるはずだ。

私達は自由にスマホを使える世代だからこそ、防犯への自覚を持ち、安心して利用できる社会をつくっていかねばならない。それが、スマホネイティブ世代に課せられた大切な責任なのだと私は思う。